

反動の嵐に抗して！	2010年	JR 東海労働組合 大台両所分会 発行者 西村泰弘 編集 教宣部
	9月21日 No.3	

沈黙を守るユニオンは何を守っているのか

二度と悲劇を繰り返さないために！！

8月20日 21歳の若者が自ら命を絶ちました。彼は遺書の中で、昨年12月に台車組立新装置での作業訓練中に装置に足を挟まれたことを大変悔やんでいました。しかし、新組立装置の不備が招いた被害者である彼が、なぜそこまで悔やまなければならなかったのでしょうか？

会社は事故が起きた当日の終業点呼で、「個人の不注意で足が装置に挟まれた」と社員に報告しました。また、会社の掲示においても、やはりあくまでも「個人の不注意」と彼を一方的に悪者にしました。当時のことを思い出してもらおうと分かるように、新台車組立装置を使用するにあたっては、一部の社員だけで作業のやり方を検証はしただけでした。私たちは関係する全社員の検証作業を求めましたが、会社は無視し実現しませんでした。

ところで、彼が所属しているユニオンは会社のこのようなやり方に何も言いませんでした。そして、彼が個人的な責任にさせられていることにも会社に対して抗議はおろか、見解のひとつも出しません。

このようなユニオンの態度に彼は何を感じたのでしょうか？

沈黙していても、何も解決しない！！

彼のご両親は、私たちが自宅へ弔問へ訪れた際、彼が「なぜ自ら命を絶たなければならなかったのか」ということが知りたい、そして何よりも「二度とこのようなことが起こらないように」と願っておられました。しかし、ユニオンは所長の「静かに見守りましょう」という言葉に応じるように、彼の自殺に対して沈黙を続けるばかりか、真実から目を背けようとしています。

沈黙することで彼やご両親の想いに応えることができるのでしょうか？

ユニオンはいったい何を守ろうとしているのでしょうか？

第二の悲劇を繰り返さないことと、みんなが楽しく働ける職場を作ることが、私たちのやることではないのでしょうか？